

# 北京の三非運動

● 放眼日中



最近、北京を訪れた際、知人らに「『三非』に気を付けろ」と言われた。聞き慣れない言葉だったが、外国人の「不法入国」「不法滞在」「不法就労」の取り締まりだという。日本語の「不」は中国語では「非」であるため、三非運動と呼ばれている。

北京市公安局は、5月中旬から8月末までこの取り締まりを展開しており、外国人出入国管理法に基づき、厳正に処罰するという。正直言って、「またか」と思う。中国では法律があっても運用しないケースが実に多く、何か事が起きると突然法に基づいた運用を始める。2008年の北京五輪の前にも、外国人のパスポート常時携帯と宿泊先の登録が突如強化され、酒に酔って反抗した日本人が拘留される騒ぎが起きた。あの時

は、少数民族のテロ組織が五輪を標的にするという噂が流れ、「外国人がテロリストを支援している」という理由で取り締まられたと聞く。あの数カ月間は相当ピリピリした空気が流れ、外を歩く時も緊張したのをよく覚えている。

では、今回の三非はなぜ行われているのか？ 今年3月に失脚した薄熙来氏の妻には、英国人のニール・ヘイウッド氏の殺害に関与したとの嫌疑が掛けられている。この事件は当初「死因はアルコール過剰摂取」として片付けられていたが、薄氏の失脚に絡み、殺人事件に様相が変わってきた。殺されたヘイウッド氏は薄家と親しい間柄で、さまざまビジネスを行っていたと言われており、一部には「英国スパイ」説も流れて

いる。

ところが、中国当局の見方は面白い。ヘイウッド氏が中国で違法にビジネスを展開し、また巨額の報酬を得ていたという建前で、外国人の取り締まりを始めたらしい。それにしても、外国人の不法就労と言えば、一般的には周辺国から流れ込む貧しい人々を想起させるだけに、今回の取り締まりには何となく違和感がある。

勿論、日本人でも就労ビザを取得せずに何らかの職に就いたり、ビジネスをしている人はいると思われるため、見せしめとして拘留、あるいは国外退去になる人間も出てくるかもしれない。しかし、「ヘイウッド事件」と不法就労をごちゃ混ぜにして取り締まる中国当局の姿勢は、日

本人には理解できない。

ある中国人は「今回の取り締まりも、薄熙来事件も、根っこは同じだ。全ては次回の党大会の人事に関連している。中国の権力闘争は他人を巻き込み、そしてその非を省みることはない。とぼつちりを受けないように気を付けろ」とわれわれに警告してくれた。

今秋に予定されている第18回中国共産党大会。「薄熙来事件」以降、依然として影響力を持つ江沢民氏の存在もあって、党内の人事が混沌としており、かなりの暗闘が繰り広げられているもようだ。

開催が延期されるとの観測すら流れる中、中国国民も外国人も息を潜めて、嵐が過ぎ去るのを待たねばならないのだろうか。



コラムニスト・アジアウォッチャー  
須賀 努

すが・つとむ 東京外語大中国語科卒。金融機関で上海留学、台湾2年、香港通算9年、北京同5年の駐在を経験。現在は中国を中心に東南アジアを広くカバーし、コラムの執筆活動に取り組む。